

鳥取県

研究協力校（課程又は障害種）

- ・鳥取県立鳥取聾学校（聴覚）
- ・鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校（聴覚）

研究の成果

観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

Ⅰ. 校内研修会及び学部研究会等による共通理解・合意形成

鳥取県では、鳥取県立鳥取聾学校（以下、「本校」）及び鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校（以下、「ひまわり分校」）の両校が共通して、多様化する幼児児童生徒の教育的ニーズに応えるために、個々の実態を多面的に整理・分析し、自立活動や教科等を横断的に関連させた指導方法や指導体制等を工夫改善することによって、基礎的・基本的な知識及び技能（幼稚部は「知識及び技能の基礎」）の確実な習得を図ることを目的として実践研究を行った。

「本校」では、「言語の力」を全体の研究テーマとして設定し、各学部の実態に合わせてテーマを設定した。幼稚部では「言語概念の育成」、小学部では「読みの力の育成」、中学部では「言語による思考力の伸長」、高等部では「自己を客観的に捉えたり、多角的に捉えたりする質の高い思考力」とした。これらのテーマをもとに、各学部で月に1回学部研究会及び分掌会を開き、教職員間の共通理解を進めた。

また、「ひまわり分校」でも、毎週の学部会や、月1回行われる職員研修会で教職員間の共通理解を深めた。とりわけ、定期的に教職員がお互いの授業を参観し、学び合う「参観ウィーク」を設定した。その際、「参観アンケート」(資料Ⅰ)を作成することで、授業者が観点を意識した授業づくりに心が

けるとともに、参観者も明確な視点で授業を参観することができた。こうした教職員間での

参観ウィーク アンケート用紙	
記入者 ()	
参観日： 月 日 ()	校時
ひよこ・幼・小・中 () 年・組 活動・教科等 ()	
【参観授業の観点】	チェック ◎・○・△
実態に応じた「めあて」が設定されている。	
思考をくすぐる6つの活動を意識して発問している。	
子どもの思考している姿が見える。(発表、記入、観察等)	
子どもの理解を促す教材が準備されている。	
学習のポイントや扱うことば等が視覚的に提示されている。	
学習の展開(つかむ・思考する・表現する・まとめる)に応じた板書がなされている。	
子どもの発言を板書に残している。	
めあてに沿った振り返りがなされている。	
本時の学習「めあて」を達成している。	
<感想・アドバイス 等>	

資料Ⅰ 参加ウィーク アンケート用紙

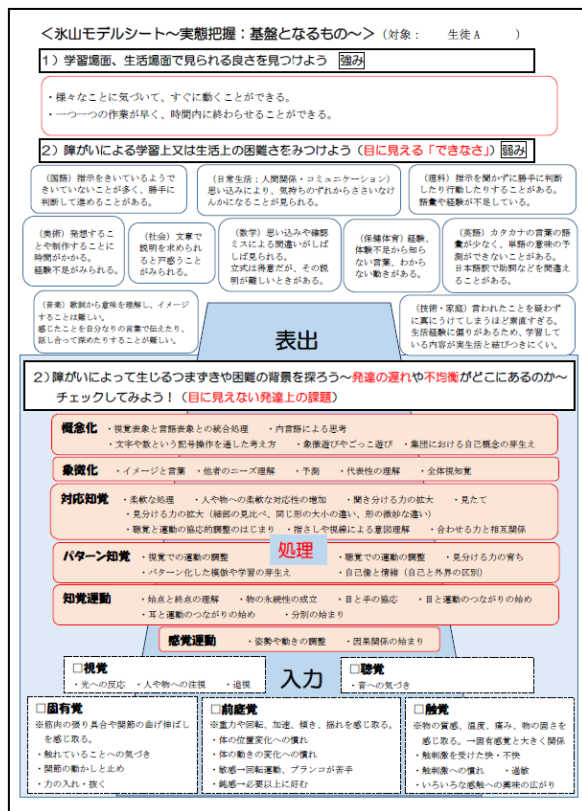
他者評価を通じて、授業改善に取り組んだ。

観点 2 :

教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2-1. 「冰山モデルシート」の作成・活用

研究目的の一部にもなっている、個々の実態の多面的な整理・分析のために、「冰山モデルシート」(資料 2)を作成し、それぞれの子どもの実態把握に活用した。具体的には、「冰山モデルシート」を用いて、個々の子どもの各教科や日常生活の中で見られる強み・弱みを具体的に記入し、弱みや課題の姿につながる要因は何かを検討した。例えば「教科書や資料から必要な情報を取り出すことが難しい」といった課題が共通して挙げられた生徒について、感覚や運動の発達の視点から視覚情報の処理の難しさに関連があると考え、自立活動の指導につなげた。「ひまわり分校」は、規模の小さい教職員集団であるが、全教職員で幼稚部から中学部までの幼児児童生徒に関わり、多面的に実態を把握することを意識している。こうした取組を継続的に行うことで、実態把握をもとに授業を組み立てるという流れが定着し、多様化する実態に対応する組織的な取組が可能となった。



資料 2 「冰山モデルシート」

2-2. 自立活動や教科等を横断的に関連させた指導の工夫

上記の実態把握をした個々の学習上又は生活上の困難やそれに基づく指導目標、指導方法を教科等横断的な視点で取り組むために、「本校」では、自立活動の個別の指導計画を修正し、「ひまわり分校」では、「自立活動の流れ図」(資料3)を作成した。

どちらも、具体的な指導場面について書き込む欄を加えることで、「誰が(授業担当者)」「いつ(指導場面)」「何を(指導内容)」「どのように(指導や支援の工夫)」行うのが明確になり、担任と授業担当者の共通理解のもと取り組むことができるようにした。

流れ図 <実態把握から具体的な指導内容・指導場面を設定するまでの流れ>																	
<table border="1"> <tr> <td>学校・学年・学年</td> <td>鳥取県立鳥取中学校ひまわり分校・中学部・年・生徒</td> </tr> <tr> <td>障害の種類・程度や状態等</td> <td>知的障害、聴覚障害、右：d8 左：d8 聴覚器使用：d8</td> </tr> <tr> <td>事例の概要</td> <td>ことばが使い易い方、視覚などを意識したやりとりを通して、幅広い見方や考え方を養う指導</td> </tr> </table>						学校・学年・学年	鳥取県立鳥取中学校ひまわり分校・中学部・年・生徒	障害の種類・程度や状態等	知的障害、聴覚障害、右：d8 左：d8 聴覚器使用：d8	事例の概要	ことばが使い易い方、視覚などを意識したやりとりを通して、幅広い見方や考え方を養う指導						
学校・学年・学年	鳥取県立鳥取中学校ひまわり分校・中学部・年・生徒																
障害の種類・程度や状態等	知的障害、聴覚障害、右：d8 左：d8 聴覚器使用：d8																
事例の概要	ことばが使い易い方、視覚などを意識したやりとりを通して、幅広い見方や考え方を養う指導																
<p>① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき点、課題等について情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害や口語を使用しコミュニケーションをとることができる。 ・伝えようという意識はあるが、単語のみの表現やことばが見えず、伝わりにくいこともある。 ・生活経験を学習に結びつけ、学習したことばや言い回しを日常生活でも積極的に使おうとしている。 ・教科学習には興味・関心を持っていて、学習内容は十分に理解し、活用できる。 ・計算など一定の規則に沿って処理することが得意で速度も速いが、計算に対して批判・想像して、多面的に物事を捉えて考えたり、行動したりすることが苦手である。 ・慣れた相手とは手話や口語で楽しく会話をすることができるが、口語だけの会話では、発音が不明瞭であったり、モータが合わなかったりすることがあり、伝わりにくいことがある。 ・伝われないときは、ゆっくりと口を動かして、指文字でわかるまで表現しようとする。 ・相手、場面に応じた適切なことばの使い方が、聴覚の概念の理解が不十分である。 																	
<p>②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に照して整理する段階</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>障害の把握</th> <th>身体が動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・自分のことばを理解し、機器の管理ができる。</td> <td>・基本的な動作にも自信を持って取り組んでいるが、状況によっては自信がなくなり、消極的になってしまったりすることがある。</td> <td>・経験不足からの相手の意見を受け入れることが難しい面が見られる。</td> <td>・それぞれに持っている課題から今後の課題を整理して働くことができる。</td> <td>・姿勢が乱れることがある。</td> <td>・手話、指文字や文章書きを志向し、学習内容を理解している。</td> </tr> </tbody> </table>						健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	障害の把握	身体が動き	コミュニケーション	・自分のことばを理解し、機器の管理ができる。	・基本的な動作にも自信を持って取り組んでいるが、状況によっては自信がなくなり、消極的になってしまったりすることがある。	・経験不足からの相手の意見を受け入れることが難しい面が見られる。	・それぞれに持っている課題から今後の課題を整理して働くことができる。	・姿勢が乱れることがある。	・手話、指文字や文章書きを志向し、学習内容を理解している。
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	障害の把握	身体が動き	コミュニケーション												
・自分のことばを理解し、機器の管理ができる。	・基本的な動作にも自信を持って取り組んでいるが、状況によっては自信がなくなり、消極的になってしまったりすることがある。	・経験不足からの相手の意見を受け入れることが難しい面が見られる。	・それぞれに持っている課題から今後の課題を整理して働くことができる。	・姿勢が乱れることがある。	・手話、指文字や文章書きを志向し、学習内容を理解している。												
<p>②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難、これまでの学習の習得状況の観点から整理する段階</p> <p>(できていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読的に教科学習に取り組み、学習したことを日常生活に活かすことができる。(心・廉・コ) ・物事を多面的にとらえて考える・行動するにおいて、柔軟性に対することで、多面的見方や考え方を身につけている。(心・廉・コ) ・理解している聴覚の数の少ない言葉や概念形成が十分でないことから、語の理解や自分の伝えたいことが困難になる。(廉・コ) ・ことばの持つ様々な意味をとらえることが難しく、自分の考えた意味だけで使おうとする。ことばだけでは意味をとらえにくい、漢字の意味とつながって考えると理解が促される。定型文には強い面が見られる。(廉・コ) 																	
<p>③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に必要な基本的な知識や理解の基盤が、発音及び質問に対し、適切な文章で答えることが難しい。(廉・コ) ・一つの事柄や物事に対して、幅広い見方をすることが苦手な、思考する力が十分に育っていない。(心・廉・コ) ・自分のことを理解し、相手や場面に応じたコミュニケーション手段を考えられるようにしたい。(心・廉・コ) 																	
<p>④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心となる課題を導き出す段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「獲得聴覚の増加」、「文章構成の意味理解」、「多面的な見方や考え方の養成」、「自己理解」 ・「獲得聴覚が増えることにより、教科学習への意欲が高まり、学力定着の礎となると考える。 ・「文章構成の意味理解ができるようになると、質問に対し、文章で応答したり、自分の伝えたいことがはっきりとして相手に伝えることができるようになったりすると考える。 ・「多面的な見方や考え方を身につけることにより、人とのめわり、問題の本質などをつかむことができ、日常生活の充実につながる」と考える。 ・自分のことを理解することで、これからの出会う様々な人とのやりとりやコミュニケーション手段の幅が増え、人間関係も円滑になる。 																	
<p>⑤ ④に基づき指導目標を設定</p> <p>課題同士の関係を整理する中で、今後目指すべき指導目標として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章表現を豊化したやりとりや事象の背景、理由などを問う疑問を意欲した学習を通して、獲得聴覚を増やし、文章構成の意味理解が進み、多面的な見方や考え方ができるようになる。 																	
<p>⑥ ⑤の指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>障害の把握</th> <th>身体が動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定</td> <td>(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服すること</td> <td>(2)他者の意見や感情の理解に関すること</td> <td>(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関すること</td> <td>(5)聴覚のみの表現やことばが足りず、伝えたい内容を相手に伝えにくい、言葉概念の形成が十分ではないこと</td> <td>(1)音読の受容と表出に関すること (2)音読の形成と活用に関すること (3)状況に応じたコミュニケーションに関すること</td> </tr> </tbody> </table>						健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	障害の把握	身体が動き	コミュニケーション	指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服すること	(2)他者の意見や感情の理解に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関すること	(5)聴覚のみの表現やことばが足りず、伝えたい内容を相手に伝えにくい、言葉概念の形成が十分ではないこと	(1)音読の受容と表出に関すること (2)音読の形成と活用に関すること (3)状況に応じたコミュニケーションに関すること
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	障害の把握	身体が動き	コミュニケーション												
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服すること	(2)他者の意見や感情の理解に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関すること	(5)聴覚のみの表現やことばが足りず、伝えたい内容を相手に伝えにくい、言葉概念の形成が十分ではないこと	(1)音読の受容と表出に関すること (2)音読の形成と活用に関すること (3)状況に応じたコミュニケーションに関すること												
<p>⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント</p> <p>(関係をもとにした説明)心(3)と人(2)と廉(5)とコ(2)、(3)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧Aである。 (自分の考えを伝える)心(3)と人(2)と廉(4)とコ(2)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧Bである。 (獲得聴覚を増やし、文章構成の仕組みを知る)心(3)と廉(5)とコ(3)に関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧Cである。</p>																	
<p>⑧ 具体的な指導内容を設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選定した項目に関連付けて具体的な指導内容を設定</th> <th>ア 他者の意見などを参考にしながら、自分の考えを伝える。</th> <th>イ 他者の意見などを参考にしながら、自分の考えを伝える。</th> <th>ウ 理解できる聴覚を増やしたり、文章構成の仕組みを知ったりする。</th> <th>エ 自分のことばや、聴覚の幅について知り、自分にとってのコミュニケーションについて考える。</th> </tr> </thead> </table>						選定した項目に関連付けて具体的な指導内容を設定	ア 他者の意見などを参考にしながら、自分の考えを伝える。	イ 他者の意見などを参考にしながら、自分の考えを伝える。	ウ 理解できる聴覚を増やしたり、文章構成の仕組みを知ったりする。	エ 自分のことばや、聴覚の幅について知り、自分にとってのコミュニケーションについて考える。							
選定した項目に関連付けて具体的な指導内容を設定	ア 他者の意見などを参考にしながら、自分の考えを伝える。	イ 他者の意見などを参考にしながら、自分の考えを伝える。	ウ 理解できる聴覚を増やしたり、文章構成の仕組みを知ったりする。	エ 自分のことばや、聴覚の幅について知り、自分にとってのコミュニケーションについて考える。													
<p>⑨ 指導場面を設定(自立活動や教科等を横断的に関連させた指導)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(教科名) 自立活動</th> <th>(教科名) 国語、社会、理科、技術</th> <th>(教科名) 国語、社会、理科、英語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自立活動 ことばドリルを使い、基本的なことばの使い方や意味の確認を行う。また、意味に応じた適切な手話表現をしたり、例文を作ったりする。</td> <td>国語、社会、理科、技術 家庭科、英語 各領域の内容を日常の事象に関連づける中で見出した問題を解決していく学習を意図的に設定する。</td> <td>国語、社会、理科、英語 重要語句について説明する時間を設定する。写真や図などで気づいたことを論理的に発表する時間を設定する。</td> </tr> </tbody> </table>						(教科名) 自立活動	(教科名) 国語、社会、理科、技術	(教科名) 国語、社会、理科、英語	自立活動 ことばドリルを使い、基本的なことばの使い方や意味の確認を行う。また、意味に応じた適切な手話表現をしたり、例文を作ったりする。	国語、社会、理科、技術 家庭科、英語 各領域の内容を日常の事象に関連づける中で見出した問題を解決していく学習を意図的に設定する。	国語、社会、理科、英語 重要語句について説明する時間を設定する。写真や図などで気づいたことを論理的に発表する時間を設定する。						
(教科名) 自立活動	(教科名) 国語、社会、理科、技術	(教科名) 国語、社会、理科、英語															
自立活動 ことばドリルを使い、基本的なことばの使い方や意味の確認を行う。また、意味に応じた適切な手話表現をしたり、例文を作ったりする。	国語、社会、理科、技術 家庭科、英語 各領域の内容を日常の事象に関連づける中で見出した問題を解決していく学習を意図的に設定する。	国語、社会、理科、英語 重要語句について説明する時間を設定する。写真や図などで気づいたことを論理的に発表する時間を設定する。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>(教科名) 自立活動</th> <th>(教科名) 社会、数学、保健体育</th> <th>(教科名) 自立活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新学習シート、通読の教材を中心に読解問題を取り上げ、教員や友達の見解、社会的通感を通して考えてみる。</td> <td>社会、数学、保健体育 書き出した疑問について、そこにいたるプロセスや根拠を問う場面を意図的に設定する。</td> <td>自立活動 ことばや聴覚の幅について学習をする。コミュニケーション手段について考え、コミュニケーションの活用場を広げるための取組をする。</td> </tr> </tbody> </table>						(教科名) 自立活動	(教科名) 社会、数学、保健体育	(教科名) 自立活動	新学習シート、通読の教材を中心に読解問題を取り上げ、教員や友達の見解、社会的通感を通して考えてみる。	社会、数学、保健体育 書き出した疑問について、そこにいたるプロセスや根拠を問う場面を意図的に設定する。	自立活動 ことばや聴覚の幅について学習をする。コミュニケーション手段について考え、コミュニケーションの活用場を広げるための取組をする。						
(教科名) 自立活動	(教科名) 社会、数学、保健体育	(教科名) 自立活動															
新学習シート、通読の教材を中心に読解問題を取り上げ、教員や友達の見解、社会的通感を通して考えてみる。	社会、数学、保健体育 書き出した疑問について、そこにいたるプロセスや根拠を問う場面を意図的に設定する。	自立活動 ことばや聴覚の幅について学習をする。コミュニケーション手段について考え、コミュニケーションの活用場を広げるための取組をする。															

資料3 「自立活動の流れ図」

観点 3:

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3. スタンダードの作成による基礎的環境整備

両校において、聴覚障害のある幼児児童生徒の共通した実態を踏まえた授業づくりの基本的な留意事項をまとめた「鳥聾スタンダード」(資料4)及び「ひまわりスタンダード」(資料5)を作成し、年度初めに全教職員で共有するとともに、新たに定期的な自己評価に活用することで授業づくりの基礎的環境整備を図った。「ひまわり分校」では、「鳥聾スタンダード」を活用しつつ、「ひまわり分校」において大切にしたい事項について「ひまわりスタンダード」で示すようにした。

「鳥聾スタンダード」は、教職員の入れ替わりに対応し、聾学校の教育でどのようなことに気を付けて授業等を行えばよいか、発問や教室環境、声かけ等5つの観点からチェック項目を作成した。こうした取組は、教職員全体で授業づくりの視点や方向性に関する共通認識をもつことを可能とするだけでなく、教職員の自己評価や授業参観の視点として活用することで、鳥取聾学校の専門性の維持に役立てるツールとなった。

鳥取聾学校スタンダード(教師用)				
定期的に目を通しましょう。 チェックの仕方は自由です。自分の分かる方法で行ってください。 学研で時間をとって行いますので、各自で保管をお願いします。				
< 授 業 編 >				
1 話し方・やりとり				
6月 9月 11月 1月				
1 視線を引きつける方法				
(1) 話し始めに注意を促し、全員の子ども視線が集まるまで待ってから話し始める。				
(2) 教師は発音者がだれか分かるように配慮する。				
2 分かりやすい話し方				
6月 9月 11月 1月				
(1) 表情豊かに、身振りや手話、指文字、キューサイン、文字など手がかりになるものを交えながら話す。				
(2) 興味を持って話を聞けるようメリハリのある話し方を工夫する。				
(3) はじめに、話のテーマやキーワード、目的、留意点などを伝えておく。				
(4) 話が長くなる場合は、「今から、〇つ話をします。1つ目は、……。2つ目は、……。」と指で所要目的の話を表す。				
(5) 聴覚活用やコミュニケーションの状態を把握し、きき取りやすい声の大きさで、少しゆっくり、はっきりと話す。				
(6) 言葉を区切るときは、文節のレベルで切って話す。「あ・お・い・い・く・ま」と言うのではなく、「あおいくるま」と言う。				
(7) 口の形がゆがんでしまうので、口の動きを誇張しすぎたり、大声を出したりしない。				
(8) 子どもとの距離や角度などに気を配り、口元や手話が見やすいように、適切な位置で話す。				
(9) 教師が先を背にして逆光になると、子どもから見て教師の姿が暗くなり眩しくなったりするので、話し手は太陽に向かって立つようにする。				
(10) できるだけ静かなところで話す。				
(11) 話したことがきちんと伝わっているか確かめる。模倣や復唱を促すことも効果的である。				
(12) 話をするとき、立ち止まり、黒板を向きながら話さないようにする。				
(13) 黒板の図などを説明する時には、視線移動が少なくなるよう、その図の近くで行う。				
(14) ある程度まとめて説明をするときに、ノートを書く時間を保障する。				

資料4 「鳥聾スタンダード」

平成30年度 教育研究部	
「ひまわりスタンダード」	
～鳥取聾学校ひまわり分校の大切にしたいもの～	
ひとりひとりの実態に応じた関わり	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に応じた手話の使用 子どもの行動や経験の言語化 単語ではなく、文章表現での会話を(聴前まで大切に) はっきりとした口形、適度な声量、わかりやすい手話
まつことが大事	<ul style="list-style-type: none"> 子どもからの発意を待つ一言を先取りしない こちらの発意は子どもの視線が回ってからの 子どもの心に寄り添い、話を共感的にきく姿勢 「愛しさと しつこさと ねばり強さと」→聾学校教員の本質
わかる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「この1時間で学ぶこと」を明確に→「めあて」の明示 視覚資料の活用→絵、図、写真、表、手話のイラスト等の提示でイメージしやすく 学習の進め方がわかる板書→1時間に板書1枚 学習に必要な言葉、重要な単語は『文字』と『手話』で 発問の工夫→ゆさぶりをかけて思考を深める! 動作化、劇化を取り入れて
りよう(量)より質	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの情報の入り口は狭い→子どもが受け止めやすい手段と内容で伝える 子どもの心をくみ取った言葉かけ 適切な教室環境・廊下掲示 情報量を抑えた前面掲示と、学習内容を活かす動的な背面・廊下掲示 教員自身が良質な言語モデル・行動モデルに!

資料5 「ひまわりスタンダード」

観点4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

4. 子どもの実態に合わせた交流及び共同学習

「本校」では、本事業以前から居住地校交流や学校間交流を行っている。学校全体としても幼児児童生徒が少ないため、保護者の中には集団活動を経験してほしいというニーズが強くあった。そのため、幼稚部では、毎週火曜日に居住地の幼稚園・保育所等に出向くという取組を行っている。そうした集団での活動を経て、個々の子どもの集団内での課題を把握し、その後の指導に生かしている。また、小学部では、平成29年度より継続的に地域の公民館の方と、こま回し等の昔遊び交流を行い、地域住民との交流を深める取組を行っている（資料6-1）。

一方、「ひまわり分校」では、校庭がないため、中学部に在籍する生徒が地域の中学校と一緒に新体カテストなどを行ったり、地域の中学校で開かれる手話交流会で、手話の「先生」として、地域の学校の子どもに手話を教える活動を行ったりしている（資料6-2）。



資料 6-1 あおば公民館との交流



資料 6-2 手話交流会

観点5：

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5. 生徒自身による自己評価の取組

生徒による自己評価については、「ひまわり分校」が中心的に取り組んだ。「ひまわり分校」では、授業の「ふりかえりシート」（資料7）を作成した。「ふりかえりシート」には、「めざす姿」に関する自己評価と、授業担当教職員による他者評価の項目を設け、客観的にその日の学習成果を振り返ることが可能になっている。また、「考えが深まったこと」として生徒が自己の思考を振り返る欄を作成することで、授業における振り返り活動を充実させ、生徒の学びの深まりを図った。

月 日（ ）		自己評価	他者評価
め ざ す 姿	①	めあてを達成することができた。	
	②	これまでに学習したことを思い出したり、活用したりして、今日の学習ができた。	
	③	先生の問いかけに対して、 <u>適切に応える</u> ことができた。 (発表、説明、行動、書く など)	
	④	教科書、ノート、ドリル、プリント、辞書などから学習に必要な情報を探して見つけることができた。	
	⑤	今日の学習でわかったことを、手話や文章で説明することができる。	
<考えが深まったこと>			
例:授業の初めと終わりで自分の考えが変わったこと、授業中に考えたこと、工夫したこと など			
<先生からのコメント>			
自分の力でできた…◎ サポートを受けてできた…○ 難しい、できなかった…△			

資料7 「ふりかえりシート」